

石鎚山におけるトイレの整備計画について

白石 崇（石鎚山トイレ問題検討委員会会長）

1. はじめに

西日本一の高さを誇る石鎚山（1982m）は、石鎚国定公園内にあって、百名山ブームの中、NHKの百名山人気ランキング第4位となった事もあり、中高年の登山ブームを背景に関西・関東方面からのツアー登山客も増加し、年間10万人を超える登山者が訪れている。その内、比較的楽な登山が楽しめるため日帰りの観光登山者が約60%、古代よりの山岳修験道の霊山ゆえ石鎚教信者が約10%と想像される。石鎚山は固有種や希少種を含む数多くの野生動植物が生息・生育するなど豊かな生態系と優れた自然環境を残す愛媛を代表する山岳地域であるが、登山者の増加が環境への負荷を増大し、貴重な自然環境が損なわれる虞がある。

その登山者による環境への最大の負荷はトイレ問題であり、自然放流式トイレの利用の増加や登山者が登山道を外れて用を足すことによる汚染や踏み荒らし等による周辺環境の悪化を抑制することが喫緊の課題となっている。

2. 石鎚山のトイレの現状

石鎚山の代表的な登山口は①成就口（表参道）、②土小屋口（現在の裏参道）、③面河口（昔の裏参道）の3箇所があり、どの登山口にもきれいな水洗トイレがある。途中のトイレは①には前社ガ森売店に自然放流式、②にはなし、③には愛媛大学山岳会石鎚小屋（通称愛大小屋）にオガクズバイオ式があり、①②の合流道と③が合流する三の鎖元に汲み取り式（実際はどうしているか分からない）、頂上に自然放流式（大雨の時やお山開きの前等に栓を抜いて流す）がある。毎年7月1日から10日間のお山開き期間中には①②の合流地点である二の鎖元に石鎚神社により土中埋め込み式のトイレが仮設される。頂上小屋には燃焼式トイレがあるが、容量の問題で宿泊者のみ使用可となっていて一般登山者は利用出来ない。山中のトイレは愛大小屋以外は大変汚く、トイレとして最低、最小条件を満たしているに過ぎない。①と②のルートには過去に使用していた休憩小屋やトイレの残骸が数箇所放置されている。その周辺が野外排泄のポイントになっていて、大便、女性の使ったペーパーが散乱しており、トイレ整備の不十分さだけでなく、山での排泄マナー・ルールの不十分と思われる箇所が散在する。

3. トイレ整備の検討

石鎚山のトイレ問題はかなり以前から「汚い」、「必要な場所がない」、「登山道脇がトイレになっている所がある」等々問題になりながら、所有者管理者不明（実際には分かっているが、明確にすれば改善命令が出た時に資金面から対応できない）と言うことから、

行政も我々もつい積極的にならず手を付けないまま放置されて来た。これを「何とかしなければいけない」、「この現状を広く知らせその改善策を皆で考えよう」と、一昨年9月に有志で開催した“フォレストミーティング2009「千年の森に集う」全国大会 in 石鎚”の分科会「石鎚の魅力の世界に～観光・修験道・世界遺産～」の中でこの問題を取り上げた。参加者からもトイレの新設、改修整備等、実現へ向けた多くの積極的な発言があり、それに勢い付けられて早速「石鎚山トイレ問題検討委員会」を立ち上げ検討を始めた。時を同じくして愛媛県の自然保護課でも石鎚山のトイレ問題を検討している事を知り、県と話し合った結果、目的は同じであり何かと便利で効率も良いと言う事から共同してこの問題を検討して行くと言う結論を得た。

県と合同で会議を繰り返した結果は次の通りである。環境に適合するトイレは、方式、容量、設置場所等により幅はあるが、設置費用は概ね2～3千万円、維持管理費は年間2～3百万円は必要であり、今の時代では行政、民間どちらにとっても設置する事は到底不可能である。もし寄付金等で設置をしたとしても誰かが維持管理の責任を引き受けねばならないがそれも金銭的には到底無理である。そこで「何をするか」ではなく「今何が出来るか」に方向を転換し、費用と手間のあまり掛からない携帯トイレの実施に向けて検討をする事とした。取り敢えず登山者の自然環境保全に対する意識啓発を図ると共に試行的に携帯トイレの利用促進に取り組み、その効果と課題を検証する事として、抵抗もあるだろうが資料集めの為にも実証実験をして見る事になった。

石鎚山トイレ問題検討委員会では昨年6月“フォレストミーティング2010「石鎚山トイレフォーラム」”(別添 新聞記事)を開催し、山岳トイレのあり方、携帯トイレへの積極的な取り組みについて参加者と大いに語り合いそれなりの成果を得た。

4. 携帯トイレの実証実験(携帯トイレデー)

主催は石鎚山トイレ問題検討委員会、後援は愛媛県としたが、実質的な実施主体は県が担当し、準備、実施、問い合わせ、苦情処理等は全て県が担当した。実施予算を50万円とし、その資金は県では予算が取れない為、石鎚山トイレ問題検討委員会が愛媛県「三浦保」愛基金の助成を受けて充当した。少々の不足金は県が負担した。

県が愛媛の山岳地域において、登山者への自然環境保全に対する意識啓発や、自然環境への負担軽減を図るため、「石鎚山クリーンアップキャンペーン」(別添 パンフレット)を平成22年9月18日から10月31日の間実施するのに合わせてその第1日目の9月18日に「携帯トイレデー」(別添 チラシ)を石鎚山において実施した。ボランティアとして愛媛県、山岳団体、自然保護団体、その他より総勢88名+αの参加を頂いた。

当日は一般的な登山者の登山、下山時刻を考慮して、10時から13時の間山頂と三の鎖元のトイレを閉鎖し、要望の多いと思われる山頂と二の鎖元に携帯トイレ仮設ブースを設置した。登山者には成就及び土小屋の登山口で携帯トイレを無料配布し当日の携

携帯トイレを説明すると共に登山口でのトイレ利用を勧めた。使用済みの携帯トイレは、石鎚登山ロープウェイ山麓下谷駅と土小屋登山口の二箇所に設置している回収ボックスに入れて頂いた。無料配布した携帯トイレは600個、回収は35個だった。回収が少なかった点に付き後刻分かった事であるが、女性の声として回収箱の前で男性係員に「こちらに入れて下さい」と言われると恥ずかしくて持ち帰ったと言う事を数人から伺った。また後日登山道脇に捨てられているのを数個発見した。

次年度以降の活動の資料とする為、下山した登山者を対象にアンケートを実施し、携帯トイレについての意識調査等を行った。アンケートの回収は238枚だった。回収が少なかった点に付いて人員配置、方法、積極性等を反省している。

5. アンケート結果（別添 携帯トイレデー アンケート結果）

男女別では男性63%、女性35%。年代別では50歳以上が約50%と中高年が多いと言う事は他地域と変わらない。携帯トイレを知っていた方61%。使用経験あり12%。登山口で勧められて済ませた90%、従って使用した方は10%と少なかった。使用した方の感想は全般的に好意的。仮設ブースの希望設置場所は頂上52%、二の鎖元31%と当初に予想した通りだった。携帯トイレだけでよい18%、常設トイレがよい31%、携帯トイレと常設の併用がよい42%と言う事は、現段階では携帯トイレについての登山者の心情は先行きの見えないところがある。

6. 今後の課題

登山者のアンケート結果や、活動に参加した団体、ボランティア等の意見、要望を踏まえ、石鎚山におけるより良い、より効率的な携帯トイレ普及活動の継続の仕方を検討しているところである。

色々難点があるとは思いますが、携帯トイレの普及啓発活動の必要性があると共に、固定式トイレの設置についても、経済的、技術的な面での研究を合わせて行う事も必要であると思う。

その次の段階として、携帯トイレの定着が望めるなら、その設備の具体的な設置方法の検討をしなければならない。今後携帯トイレがどうなるかは不明だが諸般の情勢を勘案しながら進めたいと思う。

広報宣伝の方法についても、登山口のルート図看板や登山案内のチラシに、登山のルールやマナー、並びにトイレの位置やトイレマナー等を分かりやすく記入して広報に努める事としている。また、事ある毎にマスコミを利用した広報の仕方について研究して行く事も重要である。登山口、山頂の宿泊施設は勿論、自然公園指導員、自然保護指導員等にも県を通じて強力に働きかけ協力を要請して行くと共に、森林管理署の巡視員にもお願いして行きたい。

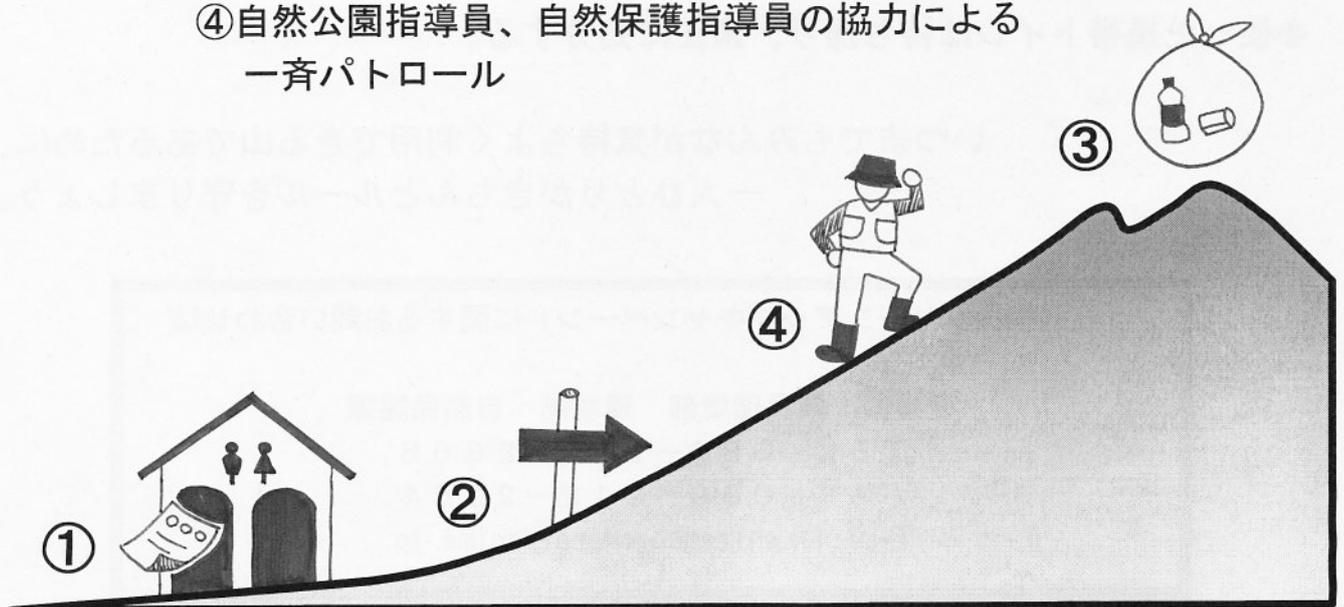
石鎚登山 グリーンアップス キャンペーン

標高 1,982m、西日本最高峰の霊峰・石鎚山。
昔から多くの人に親しまれてきたこの山は、近年、
利用者が残すゴミや排泄物によって、次第に汚染が
進んでいます。
石鎚が元の美しい姿を取り戻せるよう、愛媛県では
「石鎚登山グリーンアップスキャンペーン」を実施し、利
用者の皆様に協力を呼びかけることとしました。

●● キャンペーン概要 ●●

実施期間：平成 22 年 9 月 18 日（土）～10 月 31 日（日）

- 活動内容：①登山口でのマナーガイドや携帯トイレ普及チラシの配布、
登山口トイレの使用奨励
②登山道での登山者指導、危険箇所の迂回路の誘導など
③山頂での清掃活動、携帯トイレの普及促進活動など
④自然公園指導員、自然保護指導員の協力による
一斉パトロール



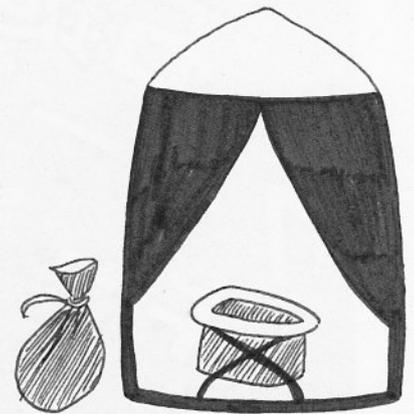
キャンペーン期間中、関連行事として「携帯トイレデー」が実施されます。

実施日：平成22年9月18日（土）
（雨天順延・予備日19日（日）、20日（月））

実施時間：8:00～15:00
（10:00～13:00までの間、山頂と三の鎖横のトイレが閉鎖されます。）

実施内容：携帯トイレのデモンストレーション
携帯トイレの配布
携帯トイレ用仮設ブース・仮設回収ボックスの設置
登山者へのアンケート調査

この事業は愛媛県「三浦保」愛基金にて実施されます。



山に登るときのルール

石鎚山に限らず、山に登るときは以下のルールを守ることを心がけてください。

- ◆高山植物や岩石の採取、木竹の伐採・損傷をしない。
- ◆保護鳥獣を殺傷したり、捕獲したりしない。
- ◆紙くず、空き缶など、自分が出したゴミは持ち帰る。
- ◆登山口のトイレで用を済ませてから登る。
- ◆案内板、指導標などの公共物を傷つけない。
- ◆キャンプ地や山小屋では、周囲の人に迷惑をかけないように行動する。
- ◆火を使うときは、火災が起きないように十分注意する。
- ◆携帯トイレを持参する。
- ◆使った携帯トイレは持ち帰り、適正に処分する。

いつまでもみんなが気持ちよく利用できる山であるために、
一人ひとりがきちんとルールを守りましょう。

「石鎚登山クリーンアップキャンペーン」に関するお問い合わせは

愛媛県 県民環境部 環境局 自然保護課

TEL：089-912-2366

FAX：089-912-2354

E-mail：shizenhogo@pref.ehime.jp



石鎚山グリーンアップキャンペーン

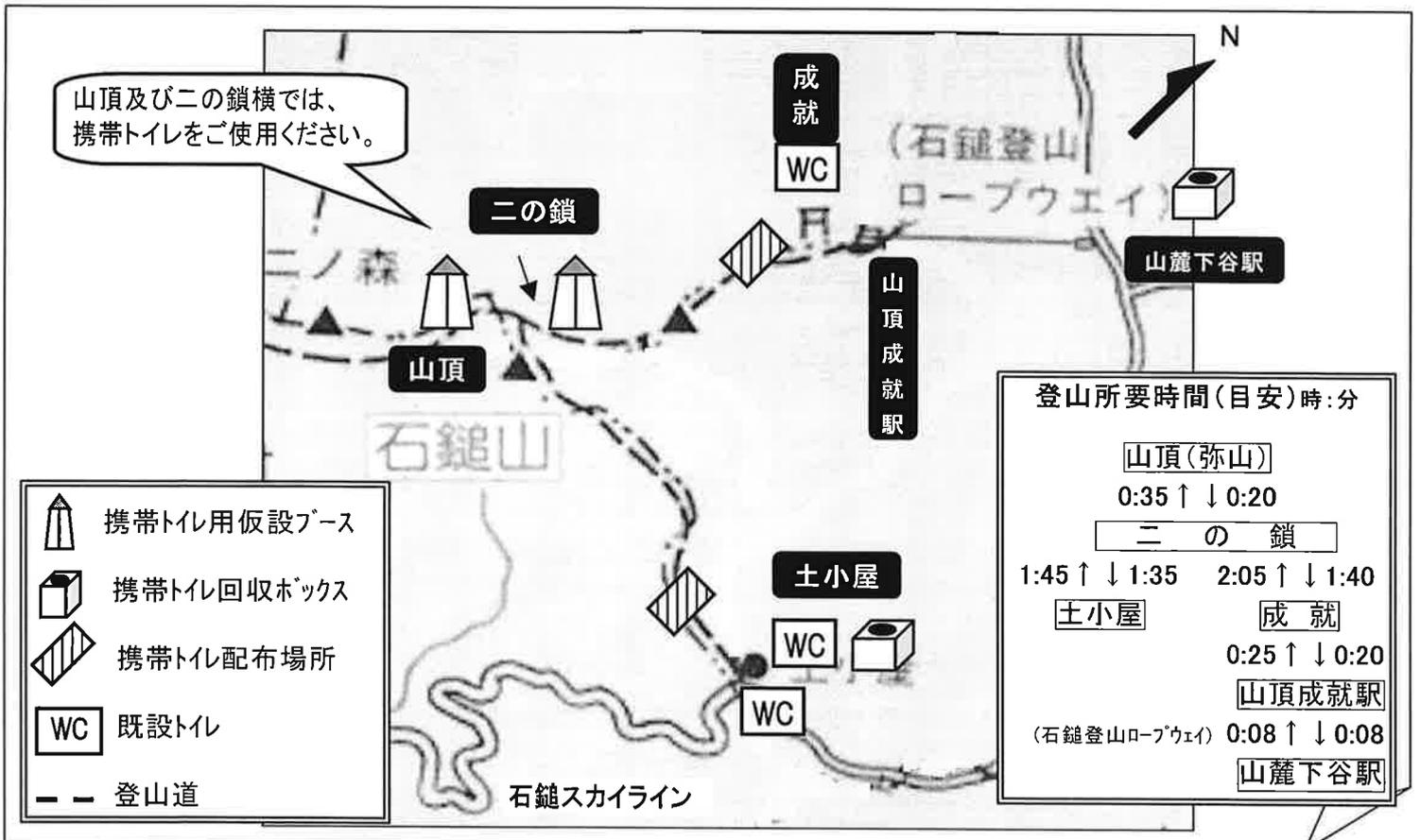
携帯トイレ

実証実験

実施日時:平成22年9月18日(土)
10:00~13:00
(荒天の場合は19日か20日に順延)

上記の時間帯は、山頂及び三の鎖横にあるトイレが閉鎖され、山頂および二の鎖横に携帯トイレ用仮設ブースが設置されます。登山口付近で無料配布する携帯トイレを使用してください。

石鎚山の自然環境を守るため、携帯トイレの使用にご協力ください。



★当日、各ポイントにスタッフが待機していますので、お気軽にお問い合わせください

【携帯トイレデーの、流れ】



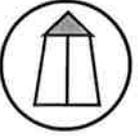
入山前に、必ずトイレを済ませてください。

土小屋ロータリー園地、土小屋第二駐車場、成就の3か所のトイレは通常通り使用できます。携帯トイレを試してみたいという方も、必ずトイレを済ませてから登ってください。



登山口付近で、携帯トイレをお受け取りください。

成就と土小屋の登山口2か所で、携帯トイレを配布します。(数量限定)



携帯トイレ用仮設ブースで、携帯トイレをご利用ください。

三の鎖横のトイレを閉鎖し、二の鎖横に「携帯トイレ用仮設ブース」を設置しています。また山頂では、既存の和式トイレに蓋をし、その上に「携帯トイレ用の折りたたみ便器」を設置しています。(ともに13時まで)

★使い方は簡単。ニオイもほとんど もれません★

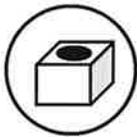
便袋を広げ、携帯トイレ用便座にセットする。

使用後は空気を抜いてしっかりと結ぶ。

チャック付袋に入れて密閉する。

登山口まで持ち帰り回収ボックスに入れる。

ご使用になった携帯トイレは、チャック付袋に入れて登山口まで持参してください。



使用済携帯トイレを回収ボックスに入れてください。

石鎚登山ロープウェイ山麓下谷駅及び土小屋の2か所で回収いたします。その際、アンケートにご協力ください。(ご使用にならなかった方にもお願いする場合があります。)

Q. なぜ携帯トイレの実証実験を行うのですか？

A. 石鎚山には年間を通して多くの方が訪れますが、山頂のトイレは数が少ししかありません。また、登山道脇でトイレを済ませる人もあり、植物の踏み荒らしやニオイ、景観上の問題が起きています。しかし、トイレ建設には多大な費用がかかります。

登山者の携帯トイレ使用は、石鎚山の自然を守ることに繋がります。今回の実験は、携帯トイレを知ってもらうとともに、今後の石鎚山のトイレのあり方を検討する材料を得ることが目的です。

Q. 携帯トイレブースは今後も設置するのですか？

A. 携帯トイレデー終了後、ブースは撤去します。今後ブースを設置する場合は、事前に広報を行います。

愛媛県三浦保愛基金にて石鎚山トイレ問題検討委員会が実施しています。(後援:愛媛県)

問い合わせ窓口:愛媛県県民環境部環境局自然保護課

TEL 089-912-2365 FAX 089-912-2354 E-mail shizenhogo@pref.ehime.jp